様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １８ 日現在

機関番号：６２６１８
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０２７１６

研究課題名（和文）ハンガリー語の周辺方言における結合の複数に関する調査研究

研究課題名（英文）Research on associative plural of Hungarian dialects in neighboring Hungary

研究代表者
大島　一（Oshima, Hajime）

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・言語変異研究領域・プロジェクト非常勤研究員

研究者番号：１０５３８０３６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では，オーストリア・ブルゲンラント州におけるハンガリー語話者のハンガリー語方言について，ハンガリー人コミュニティがある Oberwartおよびその周辺集落にて，特に固有名詞以外のヒト名詞やヒト以外の名詞につく結合の複数が，どのような意味を持つかに焦点をあて調査を行ったところ，単数所有形とした上で結合の複数(日本語でいう「たち」)が付くことで，複数所有の意味を表すことが分かった。また，同じブルゲンラント州中部のOberpullendorfでは複数所有の特別な形式は持たない。さらに，周辺方言として，隣国スロヴァキアにおけるハンガリー語話者は標準ハンガリー語の複数所有を用いることが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は，その国際学会発表や国際誌への論文投稿を通して，ハンガリー語の複数表現のなかでも，通常の複数ではなく，結合の複数（日本語でいう「たち」「ら」）に注目し，標準ハンガリー語のみならず，ハンガリーの周辺方言，特にオーストリア・ブルゲンラント州における結合の複数の特異的な振る舞いを紹介することで，日本におけるハンガリー語学およびハンガリー語研究にとって有益な知見を与えることが出来た。また，ハンガリーにおけるハンガリー語研究においても，結合の複数を扱ったものは少なく，かつ，周辺方言における結合の複数のヴァリエーションの記述は，ハンガリー語方言研究において，多大な貢献となったことと考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study has researched the associative plural marker in the Burgenland dialect of Hungarian as spoken in Oberwart and Unterwart, Austria. In Standard Hungarian, the associative plural marker is -e'k, and it can be attached only to human nouns, not (other) animate or inanimate nouns. By contrast, -ie:k in the Burgenland dialect can be added to non-human nouns if the meaning is one of “possession.” However, in this case, the meaning is not associative but possessive plural.
However, Hungarians in Oberpullendorf of Central Burgenland have not this form, that is single possessive + associative plural. Since, Hungarian minorities in Slovakia (Dunajska' Streda) use a possessive plural forms of Standard Hungarian.

研究分野：言語学

キーワード：ハンガリー語　結合の複数　ブルゲンラント方言　スロヴァキア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

（１）「複数」というカテゴリーにおいて，結合の複数（近似の複数とも）が，通常の複数と大きな違いを見せるところは，その付加する名詞の属性にある。CORBETT (2000)ではハンガリー語（ウラル語族，フィン・ウゴル語派。中央ヨーロッパに位置するハンガリーの公用語。話者数は国内外あわせ約 1,300 万人）における結合の複数の付く名詞の属性を「有生性の階層 (Animacy Hierarchy)」から説明している。それによると，通常の複数が付くことが出来る名詞にはその属性に制限はないが，結合の複数が付くことができる名詞は「人」に関するものに限られ，非人間である **kutyá-ék*「犬-たち」，**szemüveg-ék*「眼鏡-たち」は非文法的である[1]。

一方，本研究の調査対象であるオーストリア共和国ブルゲンラント州に居住するハンガリー語話者たちのハンガリー語方言（以下，ブルゲンラント方言と呼ぶ）であるが，周囲をドイツ語に囲まれ，言語接触の面でもドイツ語の影響を大きく受けている，このブルゲンラント方言における結合の複数*-i͡ëk* は，以下の例 (3), (4)のとおり，非人間の名詞にも付くことができる[2]。

(1) *Ernő-i͡ëk*　「エルネー（男性名）-たち」
(2) *barát-om-i͡ëk*　「友人-私の-たち」
(3) *kutyá-m-i͡ëk*　「犬-私の-たち」
(4) *szemüveg-em-i͡ëk*　「眼鏡-私の-たち」

また，現地コンサルタントによれば，固有名詞に付く結合の複数の典型例 (1)をのぞいて，他はまず所有形（ここでは *-m/-om/-em*「私の」。異形態は母音調和による）にした上で，結合の複数*-i͡ëk* を付けるという。同時に，この形式で得られる意味は標準ハンガリー語でいう複数所有のものでもある。(2)の標準ハンガリー語における複数所有形は *barát-ai-m*「友人-複数-私の」，(3)は *kutyá-i-m*「犬-複数-私の」，(4)は *szemüveg-ei-m*「眼鏡-複数-私の」である。ブルゲンラント方言のコンサルタントによると，標準ハンガリー語の複数所有形も使用可能だが，自然なのはブルゲンラント方言である所有形に結合の複数を付けたもの（上例 (2), (3), (4)）だという。

（２）したがって，ブルゲンラント方言の結合の複数には，本来，結合の複数の意味を持たない標準ハンガリー語の複数所有の代用として使われているものもあると考えられるが，そう結論付けるにはブルゲンラント方言のコーパスが十分な蓄積がないため応募者自身によるさらなるフィールドワークが必要である。ブルゲンラント方言の結合の複数について扱っているものは，1970 年代の Imre Samu による現地の方言研究[3]およびその方言辞書[4]であり，最近の研究では応募者のもの[2]および[5]をのぞいて存在しないからである。また，当該地域はオーストリアの国家語であるドイツ語の影響にさらされ，ハンガリー語話者は年配層に限られており，一刻も早い当該方言の調査収集とその記述は急務であることも理由の一つである。

（３）以上から，標準ハンガリー語とは異なり，ブルゲンラント方言では結合の複数が人以外にも付けられることは判明しているが，これは他の周辺のハンガリー語方言でも確認する必要がある。たとえば，OSHIMA (2015)では，ハンガリー科学アカデミー言語学研究所による大規模コーパス『ハンガリー語ナショナルコーパス』[6]で調べた結果，スロヴァキアに居住するハンガリー語話者のテキストにも人以外に結合の複数が付く例があることが報告されているが[7]，実際の生の言語データではどうか，スロヴァキア現地での聞き取り調査を行う必要がある。

２．研究の目的

（１）本研究の目的は，ハンガリー語の結合の複数（例，Péter-ék「ペーテル-たち（＝ペーテルとその仲間たち）」）について，ブルゲンラント州（オーストリア）のハンガリー語方言における結合の複数に注目し，それを記述することである。なぜなら，標準ハンガリー語において結合の複数は一般に「人」にしか付加できないが，この方言では非人間の名詞にも付加できるからである。この現象について詳細な記述を現地調査により達成するとともに，他周辺方言（スロヴァキアのハンガリー語方言）もあわせ，ハンガリー語の結合の複数の，標準ハンガリー語を越えたレベルにおける，その意味機能のより精緻な記述を目指す。

３．研究の方法

（１）オーストリア・ブルゲンラント州のハンガリー語話者の結合の複数の調査：ブルゲンラント方言の結合の複数の使用実態について，南ブルゲンラントの町オーバーヴァルト（Oberwart）およびその近隣の村や，ハンガリー語およびハンガリー文化の研究所である UMIZ（ハンガリー・メディア情報センター）に赴き，文献収集および現地コンサルタントから聞き取り調査を実施することで，結合の複数の精緻な記述を実現する。また，同じブルゲンラント州において，オーバーヴァルトの次に大きなハンガリー人コミュニティのある中部ブルゲンラントの町オーバープッレンドルフ（Oberpullendorf）でも調査を行うことで，同じブルゲンラント州において同じくドイツ語の影響下にある同条件のハンガリー語方言において，オーバーヴァルト同様の現象が見られるかを検証する。

（２）スロヴァキアのハンガリー語話者の結合の複数の調査：スロヴァキアのコメンスキー大学ハンガリー語科との共同研究により，スロヴァキア現地のハンガリー語話者へのインタビュー調査を行う。その中でスロヴァキアのハンガリー語方言における結合の複数の使用実態を調査する。

４．研究成果

（１）オーストリア・ブルゲンラント州のハンガリー語話者たちへのインタビュー調査および文献資料収集：この調査では，3 年間の期間，毎年夏に現地コンサルタントに聞き取り調査をすることで，以下の表のうち，網掛けの箇所が研究開始当初の未解決のものを明らかにした。すなわち，1）ヒト名詞でもヒト以外の名詞でも，これらに直接，結合の複数がつけられないこと，2）複数所有の意味「私の友人たち」「私の犬たち」は，通常複数の意味であり（「私の友人（複数）」，「私の犬（複数）」），結合の複数の意味はそこには無いとのことであった（以上の結果を，表内では該当箇所に取り消し線で表示）。

	固有名	ヒト名詞	ヒト以外
通常複数	*Laci-*k*「ラツィ（男性名）-複」	barát-*ok*「友人-複」	kutyá-*k*「犬-複」
結合複数	Laci-*i͡ëk*「ラツィ-たち」	~~?barát-*i͡ëk*「友人-たち」~~	~~?kutyá-*i͡ëk*「犬-たち」~~
複数所有 （結合複数）	?Laci-m-*i͡ëk*「私のラツィ（複）」 または「私のラツィ-たち」	barát-om-*i͡ëk*「私の友人（複）」 ~~または「私の友人-たち」~~	kutyá-m-*i͡ëk*「私の犬（複）」 ~~または「私の犬-たち」~~

（２）オーバープッレンドルフ（中部ブルゲンラント）のハンガリー語話者の結合の複数の調査：同じブルゲンラント州の，中部ブルゲンラントの町オーバープッレンドルフのハンガリー語話者にも，当該の結合の複数の表現について聞いてみたところ，（１）で示したような，単数所有に結合の複数をつけることで，複数所有の意味を表すようなことは無いとの答えであった。具体的には，１）単数所有を複数形にする（barát-om-ok，kutyá-m-ok），２）標準ハンガリー語の複数所有を用いる（barátaim，kutyaim），といった方策を取っている。

（３）スロヴァキアのハンガリー語話者の結合の複数の調査：スロヴァキアのコメンスキー大学ハンガリー語科の助力により，スロヴァキアでも特にハンガリー系住民の多いドゥナイスカー・ストレダ（Dunajská Streda）で現地のハンガリー語話者へのインタビュー調査を行った。その結果，スロヴァキアのハンガリー語方言では，（２）同様に，（１）で見たような結合の複数を使うことはなく，標準ハンガリー語同様に複数所有（（２）の２））を使用するとのことである。
（４）以上を，国際学会 3 本（[8][9][10]），国際誌論文投稿 2 本（[5][11]）にて発表した。なお，上記（２）（３）の調査結果については，日本ウラル学会の『ウラリカ』に現在，投稿予定である。

※参考文献

[1] CORBETT, Greville G. 2000 *Number*, Cambridge University Press.

[2] 大島 一 2015 「オーストリア・ブルゲンラント州におけるハンガリー語話者の言語状況について」,『ウラリカ』 No.16:55-71，日本ウラル学会.

[3] IMRE, Samu 1971 A felsőőri nyelvjárás, *Nyelvtudományi értekezések 72. sz.*, Akadémiai kiadó, Budapest.

[4] IMRE, Samu 1973 *Felsőőri tájszótár*, Akadémiai kiadó, Budapest.

[5] OSHIMA, Hajime 2017 The Possessive Plural Marker in the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria, *StudiaUralo-Altaica*, 131-147, University of Szeged.

[6] Hungarian National Corpus (http://corpus.nytud.hu/mnsz/index_eng.html)

[7] OSHIMA, Hajime 2015 The Functional Meaning of Associative Plural in Hungarian: Contrast with the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria", *Congressus Duodecimus Internationalis Fenno-Ugristarum Book of Abstracts* 128-129, The 12th International Congress for Finno-Ugric Studies, University of Oulu (Finland).

[8] OSHIMA, Hajime 2017 Innovative Possessive Marker in the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria, Methods in Dialectology XVI, 国立国語研究所.

[9] OSHIMA, Hajime 2018 Variation in the Possessive Plural Marker in the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria, The 2nd International Conference on Sociolinguistics, Eötvös Loránd University (Hungary).

[10] OSHIMA, Hajime 2019 Possessive Plural Construction in the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria, Indigenous Languages, Endangered Cultures Conference, Eötvös Loránd University (Hungary)

[11] OSHIMA, Hajime 2019 Innovative possessive marker in the Burgenland dialect of Hungarian in Austria, 37-46, Proceedings of Methods XVI (PETER LANG Vol.59).

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 Hajime Oshima	４．巻 59
２．論文標題 Innovative possessive marker in the Burgenland dialect of Hungarian in Austria	５．発行年 2020年
３．雑誌名 Proceedings of Methods XVI	６．最初と最後の頁 37-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3726/b17102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大島 一	４．巻 10号
２．論文標題 ハンガリー語のカナ表記について：その音韻と機能的観点から	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ことばと文字	６．最初と最後の頁 100-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Hajime Oshima	４．巻 51
２．論文標題 The possessive plural marker in the Burgenland dialect of Hungarian in Austria	５．発行年 2017年
３．雑誌名 Studia uralo-altaica	６．最初と最後の頁 131-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　5件）

１．発表者名 Hajime Oshima
２．発表標題 Possessive Plural Construction in the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria
３．学会等名 Indigenous Languages, Endangered Cultures Conference (ELTE, Budapest, Hungary)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hajime Oshima
２．発表標題 The Grammatical Distribution and Meanings of Plural Suffixes in Standard Japanese and Regional Dialects
３．学会等名 Japanese Studies Association of Australia Biennial Conference (JSAA2019)（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hajime Oshima
２．発表標題 Plurality of “-RA” in Osaka Japanese
３．学会等名 The NINJAL-SGRL-UHM Linguistics Workshop: Grammatical Descriptions of Endangered and Understudied Languages and Dialects in East Asia and Beyond (University of Hawaii at Manoa)
４．発表年 2019年

１．発表者名 Hajime Oshima
２．発表標題 Plurality of "RA" in Osaka Japanese
３．学会等名 The NINJAL-SGRL-UHM Linguistics Workshop
４．発表年 2019年

１．発表者名 大島 一
２．発表標題 大阪泉州方言における「ら」の複数性
３．学会等名 日本言語学会第157回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Hajime Oshima
２．発表標題 Variation in the Possessive Plural Marker in the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria
３．学会等名 The 2nd International Conference on Sociolinguistics（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 大島 一
２．発表標題 ハンガリー語ブルゲンラント方言における複数所有の記述：日本語の「～ら」との対照
３．学会等名 第45回日本ウラル学会研究発表大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 Nobuko Kibe & Hajime Oshima
２．発表標題 Plural Forms in Yoron-Ryukyuan
３．学会等名 The 25th Japanese/Korean Linguistics Conference（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名 Hajime Oshima
２．発表標題 Innovative Possessive Marker in the Burgenland Dialect of Hungarian in Austria
３．学会等名 Methods in Dialectology XVI（国際学会）
４．発表年 2017年

〔図書〕　計1件

１．著者名 大島 一	４．発行年 2017年
２．出版社 白水社	５．総ページ数 146
３．書名 ハンガリー語のしくみ《新版》	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考